

令和6年6月定例会 あいさつ

皆さま、おはようございます。

本日ここに、久山町議会6月定例会を招集いたしましたところ、議員全員の皆さまにご出席を賜り、誠にありがとうございます。

まず、はじめに、議会の皆さまに西日本新聞での報道の件についてお詫びをさせていただきます。

毎年、教育委員会において、山田・久原両小学校の1年生に対して、久山町道德推進委員会・久山町PTA連絡協議会編集の冊子、「伸びよ親と子」を配布いたしております。今年度も4月11日の山田・久原両小学校の入学式の日、新1年生111名に対して配布を行いました。その後5月20日に西日本新聞社が読者からの連絡を受けて、直接教育委員会にお見えになり、冊子の内容に対して尋ねられました。その際、新1年生に配布した冊子を確認したところ、本来であれば、令和3年に制作した改訂版を配布すべきでしたのに、昭和55年に作成した改定前の当初の冊子を誤って配布したことが分かりました。そのため、5月22日に新1年生の保護者に対してお詫び状と改訂版を再配布させていただいた次第です。現在までのところ、このことに対して町民の皆さまから教育委員会にご連絡等はありませんが、2024年5月24日の西日本新聞朝刊に掲載されるような事態になり、44年前から本町の道德教育に熱意を持って取り組んでいただいた久山町道德推進委員会の皆さま、久山町PTA連絡協議会の皆さまをはじめ、多くの町民の皆さまに対しまして、誠に申し訳なく、この場をお借りいたしまして、深くお詫びを申し上げます。今後は、書類等の配布前のチェック体制の強化を行い、再発防止に努めてまいります。なお、冊子の内容等も含め、明日6

月4日の道徳推進委員会において、会議が行われると伺っておりますので、行政としましてもその結果を見守ってまいりたいと考えております。

引き続き、議会の皆さまの道徳教育に対するご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、改めて、6月定例会の開催にあたりご挨拶をさせていただきます。

令和6年度がスタートし、2カ月が経ちました。この間、コロナウイルスの影響を受けたここ数年とは違い、全ての行事やイベントが通常どおり開催されました。5月12日に行われた久山スポーツフェスタでは、町民の皆さまが一堂に集い、競技や応援を一緒に楽しむことができ、各地区の打ち上げも大いに盛り上がったとの話も伺いました。また、5月25日に開催された山田・久原両小学校の運動会は、5年ぶりに昼食を挟んだプログラムとなり、例年にも増して多くの保護者でにぎわう、大変活気のある運動会でした。お弁当を保護者や友達と一緒に楽しむ光景を拝見し、町民の皆さまの日常の暮らしが戻ったことに喜びを感じるとともに、改めて当たり前の日常の尊さ、大切さを考える機会となりました。これからも町民の皆さまが安心して暮らせることを第一とした町政運営に心がけてまいります。

さて、新年度に入り、日本の社会経済情勢に目を向けると、景気は足踏み状態を脱し、回復基調にあり、株価の高騰や賃上げ等の報道が多くなっています。しかし、物価高騰はまだまだ続いており、景気回復の実感はできず、依然として国民の暮らしは厳しい状況が続いています。本町としましても、令和6年度に予定している物価高騰対策の事業を確実に実行するとともに、今後必要な対策については、国の動向も踏まえ対応していきたいと考えています。そのためにも、住民の皆さまのニーズ等を把握するため、直接皆さまとの対話をする機会が大切であります。5月8日から31日にかけて、各地区を対象に実施した地域懇談会もその一つの間でした。今回は8日間で合計250名を超える住民の皆さまにお越しいただき、多くの意見交換をすることができました。今年度の特

徴は、どの地区においても、人口政策への関心より、地域コミュニティの希薄化や消防団、子ども会など地域団体の維持存続について等の不安が多かったことです。人口が増加している本町において、地域コミュニティの維持が難しい状況となりつつあることは、今後の大きな課題であり、以前から住んでおられた方々と、新たに住まわれた方々の相互理解をどのように進めていくのかが大きなポイントであると捉えています。そのためには、一時的な解決策ではなく、普段の暮らしから、つながりをつくり、その大切さを感じていくことがシンプルかもしれませんが、有効な解決策であり、久山町だからできることだと私は信じています。なぜ、私ができるように信じていることができるのか。それは先日、今から4年前、当時久山中学校1年生の生徒が書いた作文に出会い、その作文を何度も読み返すことで、改めて、私自身もこの町に自然に根づくつながりの力に気づくことができました。その作文はJA共済連福岡が実施しているJA共済、小・中学生作文コンクールにおいて、2020年度にRKB毎日放送を受賞したものです。ここで今回、皆さまに、共有をさせていただきたいと思います。省略すると、真意が伝わりませんので、少し時間が長くなりますが、全文を紹介させていただきますこと、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

かるたが教えてくれたこと 久山町立久山中学校1年久芳れな

「ふるさとにエビネの花の咲きほこり」「くじけずに町のあしたを僕の手で」

この言葉を聞いたことはあるだろうか。これは私の住んでいる久山町の「道徳カルタ」の一つである。カルタは四十年という歴史があり、世代を越えて愛されている。

そんな中、私がこのカルタに出会ったのは、小学1年生のときだった。その頃は昔遊びの一つとして楽しんでいただけで何も感じなかった。しかし、それから数年たったこの冬。久しぶりに箱を開けるととてもなつかしいにおいとともにはらばらの札が顔を出した。「あれから何年たったのか

な」札を見ながら、あのとき何も感じなかったのにどうして今、こんなに気になるのだろうか。それは中学生になり、物事に対する感じ方、考え方が変わったからなのかもしれない。

「町ぐるみこころの花を咲かせよう」それは朝の出来事。自転車で登校していたとき、あるおばあちゃんに出会った。私が、

「おはようございます。」

と挨拶をすると、おばあちゃんは、

「あら、おはよう。今日もがんばってね。」

にっこり笑顔でかえしてくれた。そんな笑顔を見ると心がぽっと温かくなり挨拶してよかったと自信を持つことができた。顔も名前も知らない人とたった数秒の言葉を交わす。何も特別なことではないかもしれない。けれど、私にとっては特別なことだと思っている。こんな小さなやり取りだが、それが広がることで人々の心の花が咲いていく。これこそが「町ぐるみこころの花を咲かせよう」なのではないかと考えているからだ。

このカルタには他にも日常生活でのルールやマナーなど道德の心を遊びながら身に付けてほしいという町民の思いが詰まっている。このとき私は初めてカルタに込められた思いを感じとることができたのではないかと思った。このような取り組みは、どの地域も行われているわけではない。久山だから、優しく温かい気持ちであふれているこの久山だからできることなのだ。

この久山では子供たちにもっとカルタに親しんでほしいという願いのもとから、道德カルタ大会が行われている。私も何度か参加したことがあり、家族とよく練習したのを覚えている。他にも

「さべつなくふれあう心で町づくり」「れいぎよく今日も元気に寒げいこ」これらはあいさつ運動や子供相撲大会の目的にピッタリ重なった。あいさつ運動では、地域の方や学校の先生、友達とお互いに挨拶を交わす。最初はたくさんの人から挨拶をされることに抵抗があった。それでもにっこ

り笑顔で挨拶してくれたあのおばあちゃん思い出すと自然に声が出ていたこともあった。子供相撲大会では実際に参加した弟の応援に行き、びっしょりと汗をかくぐらい白熱した戦い、そしてきちんと礼をし、握手で通じ合う尊重の心。そんな姿に感動したし、礼儀を持った元気な子に育ってほしいという町の人々の強い気持ちが伝わってきた。そう、このカルタは私たちに向けてのメッセージカードだったのだ。

最後に、私がこのカルタにふれてわかったこと、それはカルタにつまっているのは歴史だけではないということだ。たった1枚欠けてもこのカルタは成り立っていない。祖母、祖父の時代に考えられ、それが今もつながっている。

なぜ、今もつながっているのか。答えは一つ、「皆が町を愛しているから」だ。毎日の交通指導をしてくださる方。町の清掃や挨拶をとどけてくださる方。時には厳しく、時には優しく。そこまでしてでも、久山町を守り、より良くしていきたいという意志があるからこそ続けてくださっているのだと思う。それはカルタも同じだ。一枚を決めるために、どれだけの知恵と労力がかかったのか。それでも完成し、今でも続いているのはやはり意志があったのだからだと思う。この道徳カルタは町民の手でつくられているからこそ、久山町民にしか分からない良さがあり、必ず何かここにぐっと感じるものがある。カルタに込められた思いが自分に伝わったとき、初めて町民として受入れてもらえた気がした。

私はこの久山町が大好きだ。自然も、人も、カルタも。これからもっとカルタに込められた思いを感じ、町を愛する人が増えてほしい、これが私の願いだ。

「カルタの思いは私がつないで見せる！」

とびきり大きな声でさげびたい。そして私の思いが声にのって、カルタに届きますように。

以上が作文の紹介です。

私たちの社会は高度経済成長時代を経験し、いつしか経済の規模や人口の多さなどをものさしに、暮らしの豊かさを測るようになってしまいました。そして、ここ数年のコロナ禍によって、ますます目の前で起こったことにしか目がいかず、私たちは知らず知らずのうちに、大切なものを見失いつつあるのではないのでしょうか。この作文は改めて、普段の暮らしから生まれるつながりの大切さを教えてくれました。誰も解決策を知らない社会課題に向き合っていくことはとても大変で厳しい道かもしれません。しかし、長年の積み重ねと地域の支えによって、このような素晴らしい子どもたちが育っている久山町だからこそ、今を生きる私たちが誇りと自信を持って未来に向かって進んでいくこと。それが大切であり、行政と議会、住民の皆さまの力、どれか一つが欠けても、これをなし得ることはできません。私も引き続き、住民の皆さまとの対話を大切にし、信頼される町政運営に邁進してまいります。引き続き、議会の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、今回定例会に提案します議案は、専決処分の承認、条例の制定・改正及び契約案件などの全9議案でございます。

詳細につきましては、担当課長が議案説明会において説明を申し上げますので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年6月3日

久山町長 西村 勝